



報道機関各位

令和2年7月21日

福井県健康福祉部保健予防課
担当者 安達、野路、上藤
電話番号 0776-20-0351
県庁内線番号 2625、2626

腸管出血性大腸菌感染症の発生について（令和2年 第8報）

1 概要

令和2年7月20日、福井健康福祉センター管内の医療機関から若狭健康福祉センターに対し、患者から腸管出血性大腸菌O26およびベロ毒素を検出した旨、届出があった。

このため、若狭健康福祉センターは、患者の健康状態、行動等についての調査を実施した。

2 患者等の状況

- ① 患者 若狭健康福祉センター管内在住の女児 1名

症状：溶血性尿毒症症候群（HUS）※があったが、回復している。

※溶血性尿毒症症候群（HUS）：腸管出血性大腸菌の有症患者の6～7%が発症するといわれている。下痢あるいは発熱出現後数日～2週間以内で発症することが多く、溶血性貧血、血小板減少および急性腎機能障害を伴う。

発症日	初診日	入院	退院	便検査	
				便検査開始	ベロ毒素確認
7/9	7/10	7/10	7/16	7/10	7/20

- ② 接触者の健康状況

5名症状なし。（5名に対し検便実施）

3 発生に伴う対応

若狭健康福祉センターにおいて、次の措置を実施した。

- ① 本人の健康状態、行動および喫食状況を調査
- ② 衛生教育の実施
- ③ 自宅等の消毒の指示 ※食中毒については、その可能性も含め医薬食品・衛生課(0776-20-0354)で調査中です。

4 腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

		平成30年	令和元年 (全国は暫定数)	令和2年 (全国は7月5日現在)	備考
全国	届出数 (人)	3,854	3,683	831	去年同期: 1,154人
福井県	届出数 (人)	39	31	12	去年同期: 13人
	有症者 (人)	26	16	10	去年同期: 8人
	無症者 (人)	13	15	2	去年同期: 5人
	初発 (月日)	1/31	1/21	2/17	
	最終 (月日)	11/28	12/24		

※ 腸管出血性大腸菌感染症の発生がありましたので、以下のことを徹底してください。

感染を予防するには、各家庭において次の事項に留意することが大切です。また、腹痛や下痢、血便等の症状がある場合には調理等を行うことを控え、早めに医療機関を受診しましょう。

- ① 少量の菌で感染が成立することから、手洗いが最も重要です。特に調理や食事の前、用便後や便の始末をした際には十分に手を洗いましょう。
- ② 調理器具は食品ごとにこまめに流水で洗い、熱湯をかけておきましょう。
- ③ 生野菜は流水でよく洗い、肉類や加熱する食品は十分に加熱（中心部を75℃で1分以上）しましょう。
→生食用の牛レバーおよび豚肉（内臓を含む。）は提供・販売されていません。
- ④ 焼肉をする場合は、生肉専用の箸を用いるなど、箸の使い分けをしましょう。